

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月19日

協議会名: 上里町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
株式会社協同バス (~R7.3月)	コミュニティバス「こむぎっちゃん号」 運賃: 100円(その他割引制度あり) 系統①: 中央ルート 系統キロ: 往復各15.2km 運行回数: 8回/日 系統②: 北部ルート(ユニクス循環) 系統キロ: 循環18.5km 運行回数: 6回/日 系統③北部ルート(ユニクス循環)(1便) 系統キロ: 片道11.7km 運行回数: 0.5回/日 系統④北部ルート(ユニクス循環)(8便) 系統キロ: 片道6.7km 運行回数: 0.5回/日 系統⑤南部ルート(ユニクス循環) 系統キロ: 循環15.1km 運行回数: 7回/日 系統⑥南部ルート(ユニクス循環)(8便) 系統キロ: 片道12.1km 運行回数: 0.5回/日 系統⑦北部ルート(アグリパーク循環) 系統キロ: 循環14.3km 運行回数: 7回/日 系統⑧北部ルート(アグリパーク循環)(8便) 系統キロ: 片道8.7km 運行回数: 0.5回/日 系統⑨南部ルート(アグリパーク循環) 系統キロ: 循環18.2km 運行回数: 7回/日 系統⑩南部ルート(アグリパーク循環)(8便) 系統キロ: 片道12.8km	・高齢者へのコミュニティバスの利用促進支援事業として実施している高齢者無料パスについては、今年度においても発行件数が継続的に増加し、目標値には届かなかったものの、利用者の増加にも繋がった。 ・次期公共交通計画及び次期公共交通形態の運行計画策定に伴う準備作業を進め、令和7年4月1日からの運行体制の見直し滞りなく進むよう尽力した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。 【目標】 ①年間利用者数 11,150人 ②高齢者無料パスの発行件数 300件 【実績】 ①年間利用者数 9,721人 ②高齢者無料パスの発行件数 347件 【分析】 利用者数は目標値の達成に至らなかったが、昨年の同期間(9,531人)よりも約2%増となった。高齢者無料パスについては順調に伸び、目標値を達成することができた。	令和7年3月を以て同運行体制は見直しとなり、令和7年4月より新たな体制での運行を開始した。見直し前の同運行で蓄積された利用状況等のデータについては、新たに開始した運行体制へ活用していく。

<p>庄和観光バス株式会社 (R7.4月～)</p>	<p>コミュニティバス「こむぎっちゃん」 運賃：一般200円 小学生100円 回数券(7回分)1,000円 (その他割引制度あり)</p> <p>系統：中央ルート 系統キロ：往12.6km,復13.3km 運行回数：7.6回/日</p> <p>※車両減価償却費補助活用(ノンステップバス2両)</p>	<p>・令和7年3月に策定した上里町地域公共交通計画に基づき、令和7年4月より運行開始。 ・JR高崎線神保原駅を利用しやすく且つ覚えやすいラウンドダイヤに改正、車椅子のまま乗車可能なノンステップバスを導入し、大きく利便性が向上した。 ・新たな地域公共交通について、広報紙や町ホームページ、時刻表等を基に周知を実施し、町内5地区で説明会を開催した。</p>	A	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	A	<p>事業が計画に位置付けられた目標を達成できていた。 【目標】 ①年間利用者数 8,000人 ②収支率 2.16% 【実績】 ①年間利用者数 8,870人 ②収支率 3.11% 【分析】 想定していた利用者数及び収支率を大きく上回った。</p> <p>新たに運行を開始した日曜運行の伸び率が想定していたよりも低いことから、引き続き制度に係る周知を実施していく。</p>
<p>花園観光バス株式会社 (R7.4月～)</p>	<p>上里町デマンド交通 運賃：一般300円 小学生150円 回数券(4回分)1,000円 (その他割引制度あり)</p> <p>営業区域：①北部エリア ②南部エリア 運行日：月曜～金曜(祝日含) 運行時間帯：8時30分～18時</p>	<p>・令和7年3月に策定した上里町地域公共交通計画に基づき、令和7年4月より運行開始。 ・町内各住宅から直線距離約150m圏内への停留所設置、AIオンデマンドシステムによる効率の良い配車、Webアプリによる24時間予約対応を可能とし、コミュニティバスよりも柔軟なニーズへ対応できる体制を構築した。 ・新たな地域公共交通について、広報紙や町ホームページ、時刻表等を基に周知を実施し、町内5地区で説明会を開催した。また、デマンド交通については随時出張登録会を実施し、継続した周知に努めている。</p>	A	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	A	<p>事業が計画に位置付けられた目標を達成できていた。 【目標】 ①年間利用者数 2,000人 ②収支率 2.16% 【実績】 ①年間利用者数 2,525人 ②収支率 3.77% 【分析】 想定していた利用者数及び収支率を大きく上回った。</p> <p>今後はAIオンデマンドシステムを活用したデータ分析を積極的に行い、最適な運行体制を実現するための見直し等を随時実施していく。</p>
<p>地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)</p>	<p>新たな地域公共交通について、広報紙や町ホームページにおいて時刻表等を掲載し、町内5地区で説明会を実施するなど、継続的な周知に取り組まれ、年間利用者数の目標を達成されたことを評価する。 収支率について、その数値目標を達成することのみを意識するのではなく、地域にとって必要なサービス水準を設定したうえで、必要なサービス水準に対して妥当なコストであるか、提供しているサービスの利用状況に対して需要に合ったものとなっているかを確認した上で分析することが望ましい。</p>					